



みらいつうしん

12月号

2020年12月1日
 田園調布学園大学
 みらいこども園
 園長 勝浦 芳子



ともにつながり育つ子ども達

寒暖差の激しい師走を迎えておりますが、新型コロナウイルスは、感染が拡大し重症者が増加するなど、第3波の警戒に対し、不安な日々を感じております。また、本格的な冬の到来を迎え、気温、乾燥などの影響から突然の発熱やインフルエンザなどの感染症も少しずつ流行りだしてきていますので、引き続きうがい手洗いを忘れずに、ご家族皆さんで体調管理に努めてください。

さて、最近の子ども達は、好きな場所や遊びを見つけては、楽しみ方を個々に工夫しています。友達との関わりも多くなり、遊びの内容も単純なものから複雑なものに発展させるなど、とことん遊びに熱中している場面が多く見られるようになりました。11月18日、19日に行われた『みらいランド』でも、にじ組さんとそら組さんが、思い思いのお店を作り、乳児さんとほし組さんを招待して、「お買い物ごっこ」を楽しみ、人と関わる遊びを味わっていました。実は、ここまで来るには、お店屋さんのイメージや意見がなかなかまとまらず、「大丈夫かな？」と、とても心配でした。保育者が根気よく子ども達の思いに近づきながら環境を整えていった結果、当日、そら組さんは、『回転すし』『たこ焼き』『泥団子』『アクセサリー』『アイス』『バーガー』『パフェ』『ラーメン』『双眼鏡』『お金』などのかわいいお店が並び、工夫して作った作品を嬉しそうに買い物に来てくれたお客さんに声をかけて売っていました。にじ組さんも、『おたけ屋敷』『ダンスショー』『車屋(ゴーカート)』『自然物(リース)』『マラカス』『お絵かき』『魚屋』『お菓子屋』『銀行』『鬼滅の刃ショップ』とバラエティー豊かなお店を作り、「どうしたら、みんなが楽しめるのだろう？」と友達と話し合い、ただものを売るのではなく、体験できるものやゲームも取り入れて、2倍楽しめる工夫がたくさんみられ、まるで文化祭のようでした。また、「今は、コロナだから、密を避けなきゃ！フェースシート！！」とお店の前に透明なビニールをつけたり、椅子の間隔をとったりするなど、子ども達の遊びには、生活そのものが表現されているのだなと改めて感じました。特に、にじ組さんのおもてなしのアンテナは、年齢の低いお子さんへの対応にもしっかり行き届いていて、思いやりの気持ちが伝わってきました。2日目は、にじ組さんとそら組さんもいよいよお買い物に。お店がオープンすると、子ども達の心のボルテージは、最高値に達していて、満面の笑顔で楽しんでいました。今年は、コロナ禍の中ではありますが、園児たちも逆境を跳ね返すかの如く、クオリティーが高く、発想豊かな作品が多かったことに驚きました。日頃の遊びで培った経験や技術が作品に凝縮され、学びに向かう力がしっかり積み重なっているように感じました。この「できた、楽しかった」という思いや体験が、次へのステップの土台になり、共に刺激されながらお互いを認め合い、たくさんのことにつながって育って欲しいと心から願っています。

まだまだ、国難とも言える「新型コロナ禍」の先が読めない状況の中で、今まで通りの行事ができないこともあります。子ども達は、普段の園生活だけでもお互いを認め合い、共に逞しく成長しています。私たち保育者も、子ども達のパワーに負けないよう連携をしっかりととり、子ども達の安全を第一に考え、一人一人の教育保育に努めて参ります。どうぞ、これからもご理解ご協力をお願いいたします。

